

2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月12日

上場会社名 GFA株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 8783 URL http://www.gfa.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 片田 朋希  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部 主任 (氏名) 西野 麻衣 (TEL) 03-6432-9140  
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	379	△66.0	△559	—	△507	—	△625	—
2020年3月期第2四半期	1,118	247.8	△68	—	△85	—	△93	—

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 △623百万円(—%) 2020年3月期第2四半期 △94百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	△50.17	—
2020年3月期第2四半期	△9.76	—

潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載していません

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	3,601	1,113	30.5
2020年3月期	3,448	1,479	42.7

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 1,101百万円 2020年3月期 1,474百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年3月期	—	0.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,613	9.2	△824	—	△767	—	△890	—	△63.70

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2021年3月期通期連結業績予想の修正の詳細につきましては、本日(2020年11月12日)に公表いたしました「助成金、特別損失の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 社(社名) 、除外 社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	14,279,800株	2020年3月期	12,149,300株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	300,449株	2020年3月期	300,449株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	12,474,902株	2020年3月期2Q	9,566,413株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11
(追加情報)	12
3. その他	13
継続企業の前提に関する重要事象等	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2020年4月1日～2020年9月30日）における我が国経済の業況判断につきましては、日銀短観（2020年10月1日発表）によりますと、企業の景況感を示す業況判断指数（DI）が大企業・製造業で前回調査から7ポイント改善し、マイナス27ポイントとなりました。堅調な中国経済に支えられ製造業は回復基調を維持しており、GoToキャンペーンなどに伴う消費活動の再開で非製造業も最悪期を脱出しつつあります。国内景気全般の回復が期待できるものの、世界的に広がる新型コロナウイルス感染症の第2波や米大統領選のゆくえなどが懸念材料として残ります。

世界経済につきましては、国際通貨基金（IMF）が2020年の世界経済見通しを0.8ポイント上方修正し、4.4%のマイナス成長と予測しました。中国の経済回復が想定より早まり、前回発表より上方修正となりましたが、新型コロナウイルス感染症は収束しておらず、不透明な状況が続いております。

国内不動産業界につきましては、国土交通省がまとめた2020年の地価調査（2020年9月30日発表、基準地価7月1日現在）では全国の全用途平均が3年ぶりに下落となりました。都市部の開発をけん引した訪日客需要が消失し、都心商業地の減速感が強まりました。

このような環境のもと、当社グループは、収益獲得のさらなる強化に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高379,947千円（前年同四半期比66.0%の減）となり、経常損失507,665千円（前年同四半期は85,335千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失625,879千円（前年同四半期は93,339千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

当社は前連結会計年度末日をみなし取得日として空間プロデュース事業を行うアトリエブックアンドベッド株式会社及び株式会社CAMELOTを連結の範囲に含めております。当該事実を鑑み報告セグメントとして「空間プロデュース事業」を新たに追加しております。また、当社は2020年よりレーシングゲームアプリの開発を始め、2020年9月には株式会社CAMELOTが運営するCLUB CAMELOTを会場としてeスポーツ大会を開催いたしました。今後の事業拡大に鑑みて当第2四半期連結会計期間より報告セグメントとして「ゲーム事業」を新たに追加しております。

#### ①金融サービス事業

金融サービス事業につきましては、主としてファイナンシャル・アドバイザー事業、投融資事業及び不動産投資事業の営業活動を行ってまいりました。ファイナンシャル・アドバイザー事業につきましては、取引先の資金調達支援や財務戦略の助言などに努めました。投融資事業につきましては、様々な事業者の事業資金需要に応える事業融資を実行しました。不動産投資事業につきましては、1棟マンションの運用による賃料収入や不動産仲介手数料を得ました。

この結果、売上高は105,300千円（前年同四半期比89.2%の減）、セグメント損失は188,520千円（前年同四半期は27,052千円のセグメント損失）となりました。

#### ②サイバーセキュリティ事業

サイバーセキュリティ事業につきましては、主として、海外製のサイバーセキュリティ商品の販売活動を行ってまいりました。この結果、売上高は137,152千円（前年同四半期比0.2%の減）、セグメント利益は18,748千円（前年同四半期は41,749千円のセグメント損失）となりました。

#### ③空間プロデュース事業

空間プロデュース事業につきましては、宿泊施設の運営及びナイトクラブの運営による営業活動を行ってまいりました。新型コロナウイルス感染症による休業の影響を受けた結果、売上高は122,994千円、セグメント損失は251,579千円となりました。

#### ④ゲーム事業

ゲーム事業につきましては、レーシングゲームアプリの開発、eスポーツ大会の開催をいたしました。ゲームアプリの完成は2021年春を予定しておりますが、先行して開発費用138,000千円を研究開発費として計上しております。

この結果、売上高は14,500千円、セグメント損失は137,899千円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は2,952,523千円となり、前連結会計年度末に比べ278,545千円増加しました。これは主に、借入金により現金及び預金が264,304千円、中古住宅の取得等により販売用不動産が118,920千円増加したことなどによるものであります。固定資産は649,163千円となり、前連結会計年度末に比べ110,061千円減少しました。これは主に、のれんが70,384千円減少したことなどによるものであります。繰延資産は0円となり、前連結会計年度末に比べ15,585千円減少しました。

この結果、総資産は3,601,687千円となり、前連結会計年度末に比べ、152,898千円増加しました。

## (負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は1,790,603千円となり、前連結会計年度末に比べ226,221千円増加しました。これは主に、短期借入金が200,000千円増加したことなどによるものであります。固定負債は698,060千円となり、前連結会計年度末に比べ292,848千円増加しました。これは主に、長期借入金が285,763千円増加したことなどによるものであります。

この結果、負債合計は2,488,663千円となり、前連結会計年度末に比べ、519,070千円増加しました。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は1,113,023千円となり、前連結会計年度末と比べ366,172千円減少しました。これは主に、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金が154,732千円増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失625,879千円を計上したことなどによるものであります。

この結果、自己資本比率は30.5%（前連結会計年度末は42.7%）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期通期連結業績予想につきましては、最近の業績動向等を踏まえ修正いたしました。詳細につきましては、本日（2020年11月12日）公表いたしました「助成金、特別損失の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	249,811	514,115
売掛金	50,469	77,682
営業貸付金	424,245	254,528
営業投資有価証券	465,703	481,751
販売用不動産	713,201	832,121
仕掛販売用不動産	644,824	719,976
前渡金	58,428	1,060
その他	91,755	122,337
貸倒引当金	△24,461	△51,051
流動資産合計	2,673,977	2,952,523
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	263,954	237,099
リース資産（純額）	3,101	1,876
その他（純額）	59,539	37,721
有形固定資産合計	326,594	276,697
無形固定資産		
のれん	331,617	261,232
その他	1,738	6,554
無形固定資産合計	333,355	267,786
投資その他の資産		
長期営業債権	165,321	164,821
敷金及び保証金	94,660	87,751
その他	4,614	16,928
貸倒引当金	△165,321	△164,821
投資その他の資産合計	99,275	104,679
固定資産合計	759,225	649,163
繰延資産		
株式交付費	14,863	—
その他	721	—
繰延資産合計	15,585	—
資産合計	3,448,789	3,601,687

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	38,339	60,028
短期借入金	110,000	310,000
1年内返済予定の長期借入金	646,896	617,053
未払法人税等	10,421	11,373
未払金	71,825	90,594
前受金	659,316	666,872
店舗閉鎖損失引当金	—	11,469
その他	27,582	23,211
流動負債合計	1,564,382	1,790,603
固定負債		
長期借入金	403,767	689,531
繰延税金負債	608	1,980
その他	836	6,548
固定負債合計	405,211	698,060
負債合計	1,969,593	2,488,663
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,183,398	1,338,131
資本剰余金	1,218,198	1,312,931
利益剰余金	△902,889	△1,528,768
自己株式	△24,876	△24,876
株主資本合計	1,473,832	1,097,418
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,150	3,745
その他の包括利益累計額合計	1,150	3,745
新株予約権	2,560	10,526
非支配株主持分	1,652	1,333
純資産合計	1,479,195	1,113,023
負債純資産合計	3,448,789	3,601,687

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	1,118,554	379,947
売上原価	1,016,681	221,635
売上総利益	101,872	158,312
販売費及び一般管理費	170,675	717,562
営業損失(△)	△68,802	△559,250
営業外収益		
受取利息及び配当金	14	6
為替差益	239	78
雇用調整助成金	—	85,098
その他	4,632	15,493
営業外収益合計	4,885	100,676
営業外費用		
支払利息	11,237	17,485
支払手数料	—	11,154
社債発行費等償却	311	5,024
株式交付費償却	9,196	14,897
持分法による投資損失	587	31
その他	85	498
営業外費用合計	21,418	49,091
経常損失(△)	△85,335	△507,665
特別利益		
新株予約権戻入益	11	2,560
持分変動利益	3	—
その他	—	120
特別利益合計	14	2,680
特別損失		
投資有価証券評価損	5,967	—
減損損失	—	105,458
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	11,469
特別損失合計	5,967	116,928
税金等調整前四半期純損失(△)	△91,288	△621,913
法人税、住民税及び事業税	1,085	4,284
法人税等調整額	520	—
法人税等合計	1,606	4,284
四半期純損失(△)	△92,894	△626,197
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	444	△318
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△93,339	△625,879



## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純損失(△)	△92,894	△626,197
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,795	2,594
その他の包括利益合計	△1,795	2,594
四半期包括利益	△94,690	△623,602
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△95,134	△623,284
非支配株主に係る四半期包括利益	444	△318

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△91,288	△621,913
減価償却費	818	30,388
株式報酬費用	—	5,547
雇用調整助成金	—	△85,098
減損損失	—	105,458
のれん償却額	11,444	19,412
貸倒引当金の増減額(△は減少)	5,800	26,089
受取利息及び受取配当金	△14	△6
支払利息	11,237	17,485
持分法による投資損益(△は益)	587	31
投資有価証券評価損益(△は益)	5,967	—
社債発行費等償却	311	5,024
株式交付費償却	9,196	14,897
売上債権の増減額(△は増加)	△9,688	△27,212
仕入債務の増減額(△は減少)	9,569	21,689
前受金の増減額(△は減少)	—	7,556
未払金の増減額(△は減少)	△1,948	8,609
未払消費税等の増減額(△は減少)	11,121	△12,615
営業債権の増減額(△は増加)	△772	△853
販売用不動産の増減額(△は増加)	840,244	△194,072
前渡金の増減額(△は増加)	△164,647	57,367
未収消費税等の増減額(△は増加)	△546	△6,088
営業貸付金の増減額(△は増加)	19,350	170,217
営業投資有価証券の増減額(△は増加)	3,757	△12,081
預り保証金の増減額(△は減少)	△6,000	—
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	—	11,469
その他	△63,575	9,354
小計	590,926	△449,342
利息及び配当金の受取額	14	6
利息の支払額	△11,237	△9,195
雇用調整助成金の受取額	—	64,158
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	7,098	△2,584
営業活動によるキャッシュ・フロー	586,801	△396,958
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△430	△32,302
投資有価証券の取得による支出	—	△2,000
無形固定資産の取得による支出	—	△5,149
差入保証金の差入による支出	△3,819	△3,825
その他	—	200
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,249	△43,076

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	200,000
短期借入金の返済による支出	△100,000	—
長期借入れによる収入	488,200	395,460
長期借入金の返済による支出	△989,309	△139,539
株式の発行による収入	149,950	305,003
リース債務の返済による支出	—	△1,347
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△60,000
新株予約権の発行による収入	6,471	9,406
新株予約権の発行による支出	△1,772	△4,643
財務活動によるキャッシュ・フロー	△446,459	704,339
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	136,091	264,304
現金及び現金同等物の期首残高	625,323	249,811
現金及び現金同等物の四半期末残高	761,415	514,115

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

## (継続企業の前提に関する注記)

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う政府緊急事態宣言、政府及び自治体からの各種要請等を受けて、当社グループの空間プロデュース事業セグメントでホテルを運営する連結子会社アトリエブックアンドベッド株式会社及びナイトクラブを運営する連結子会社 株式会社CAMELOTは、当社連結子会社となって間もない2020年4月から、店舗の臨時休業及び営業時間短縮等の営業自粛を行ってまいりました。また、顧客来店型の事業展開を行っているこれらの子会社では、東京オリンピックの開催延期や外出自粛等により需要が激減しており、新型コロナウイルスの感染拡大の影響は、当社グループの経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な悪影響を及ぼしております。

この結果、当第2四半期連結累計期間では、重要な営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する四半期純損失を計上し、当連結会計年度でも、大幅な赤字決算が予想されております。また、今後の資金繰りにも懸念が生じており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループでは、このような状況を解消するために、当社グループの役職員を対象としたストック・オプション制度の活用による手許資金確保、各種給付金や雇用調整助成金制度の活用、新型コロナウイルス感染症特例貸付制度の活用、新型コロナウイルス感染症特例リスクスケジュール制度を活用した金融機関への支払猶予要請、一部支払債務の支払猶予要請、緊急経済対策に基づく税金及び社会保険料の納税猶予制度の利用、その他の経費の見直しや削減等の各種施策を実行し、資金繰りの改善を図っております。また、営業面では、緊急事態宣言の解除を受け、宿泊施設で日中のカフェ営業やナイトクラブでのeスポーツイベント開催など安全面に配慮しつつ営業活動を実行し、収益獲得に努めております。更に、第6回新株予約権発行で調達する資金により新たな収益獲得につながるM&Aを実行してまいります。

しかしながら、これらの対応策は、ご支援いただく関係先のご意向等に左右されるものであり、各種施策は実行途上にあること、また、当該感染症の収束やその後の需要の回復は不透明であり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

## (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

当社は、当第2四半期連結累計期間において新株予約権の行使による払込みを受けました。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ76,050千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が1,037,048千円、資本剰余金が1,071,848千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

当社は、当第2四半期連結累計期間において新株予約権の行使による払込みを受け、資本金及び資本剰余金がそれぞれ154,732千円増加しました。また、当第2四半期連結会計期間において連結子会社である株式会社CAMELOTの株式20%を追加取得したことにより、資本剰余金が60,000千円減少しております。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が1,338,131千円、資本剰余金が1,312,931千円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	金融サービス事業	サイバーセキュリティ事業	
売上高			
外部顧客への売上高	981,054	137,499	1,118,554
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	981,054	137,499	1,118,554
セグメント損失(△)	△27,052	△41,749	△68,802

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計
	金融サービス事業	サイバーセキュリティ事業	空間プロデュース事業	ゲーム事業	
売上高					
外部顧客への売上高	105,300	137,152	122,994	14,500	379,947
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	105,300	137,152	122,994	14,500	379,947
セグメント利益又は損失(△)	△188,520	18,748	△251,579	△137,899	△559,250

(注) 報告セグメントの利益又は損失は営業損益ベースの数値であります。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は従来より金融サービス事業及びサイバーセキュリティ事業を主要な事業としておりましたが、前連結会計年度末日をみなし取得日として空間プロデュース事業を行うアトリエブックアンドベッド株式会社及び株式会社CAMELOTの2社を連結の範囲に含め、第1四半期連結会計期間から当該2社の業績を連結損益計算書に取り込んでおります。当該事実を鑑み、前連結会計年度から報告セグメントとして「空間プロデュース事業」を新たに追加しております。

また、当社は2020年よりゲームアプリの開発を始め、2020年9月には株式会社CAMELOTが運営するCLUB CAMELOTを会場としてeスポーツ大会を開催いたしました。今後の事業拡大を鑑みて当第2四半期連結会計期間より報告セグメントとして「ゲーム事業」を新たに追加しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

空間プロデュース事業において、閉店が予定されている2店舗について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失54,486千円を特別損失に計上いたしました。

また、のれんについては連結子会社であるアトリエブックアンドベッド株式会社において、新型コロナウイルス感染拡大の影響により株式会社取得時に想定していた利益が見込めなくなったため、のれんの未償却残高50,971千円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

第1四半期連結累計期間の四半期報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)に記載した、新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(繰延資産の処理)

支出の効果が期待されなくなった繰延資産を一括償却し営業外費用に計上しております。また、当社グループでは、新型コロナウイルス感染症の拡大など経営環境が不透明であることに鑑み、第1四半期連結累計期間から、株式交付費等の繰延資産の処理は、支出時に全額費用処理する方法に見直しております。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う政府緊急事態宣言、政府及び自治体からの各種要請等を受けて、当社グループの空間プロデュース事業セグメントでホテルを運営する連結子会社アトリエブックアンドベッド株式会社及びナイトクラブを運営する連結子会社 株式会社CAMELOTは、当社連結子会社となって間もない2020年4月から、店舗の臨時休業及び営業時間短縮等の営業自粛を行ってまいりました。また、顧客来店型の事業展開を行っているこれらの子会社では、東京オリンピックの開催延期や外出自粛等により需要が激減しており、新型コロナウイルスの感染拡大の影響は、当社グループの経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な悪影響を及ぼしております。

この結果、当第2四半期連結累計期間では、重要な営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する四半期純損失を計上し、当連結会計年度でも、大幅な赤字決算が予想されております。また、今後の資金繰りにも懸念が生じており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループでは、このような状況を解消するために、当社グループの役職員を対象としたストック・オプション制度の活用による手許資金確保、各種給付金や雇用調整助成金制度の活用、新型コロナウイルス感染症特例貸付制度の活用、新型コロナウイルス感染症特例リスクスケジュール制度を活用した金融機関への支払猶予要請、一部支払債務の支払猶予要請、緊急経済対策に基づく税金及び社会保険料の納税猶予制度の利用、その他の経費の見直しや削減等の各種施策を実行し、資金繰りの改善を図っております。また、営業面では、緊急事態宣言の解除を受け、宿泊施設で日中のカフェ営業やナイトクラブでのeスポーツイベント開催など安全面に配慮しつつ営業活動を実行し、収益獲得に努めております。更に、第6回新株予約権発行で調達する資金により新たな収益獲得につながるM&Aを実行してまいります。